

Q34. 透析終了後の血圧が高いと除水量が不足気味なのでしょうか。

A.

慢性腎不全（透析患者）で高血圧が起こる原因として、大きく2つあげられています。

1つは腎不全によってナトリウム（塩分）、水分が体内に貯留し、その結果体液量、循環血液量が増加して起こる高血圧（体液量依存性高血圧）と、もう1つは腎臓で分泌されるレニンというホルモンとそれに引き続いて産生されるアンギオテンシンという強力な血圧を上昇させる物質により起こる高血圧（レニン依存性高血圧）です。それ以外にも高血圧の成因として、レニンなどとは逆に血圧を下げる降圧因子の欠如、自律神経の異常、血管性の因子など様々な原因が考えられています。

透析患者さんの高血圧の多くは、1つ目の塩分、水分の貯留により体液が過剰となり起こってくるものと考えられており、透析により過剰の体液を除去（除水）すると血圧が低下してくることがよくみられます。一般的には、透析後でも血圧が高いと、まだ除水が十分でなくドライウェイト（目標体重）が高すぎるのではないかと考える場合がよくあります。

しかし、これは全てのケースにあてはまるわけではありません。例えば、先に述べた2つ目の原因にある血圧を上げる（昇圧）ホルモンの影響による高血圧です。除水にともない昇圧ホルモンの分泌が多くなり、その結果透析の後半にかえって血圧が上昇してくる場合があります。

つまり、透析終了時の血圧も適切なドライウェイトを決定する判断材料のひとつですが、全てそれだけで除水量が不足かどうかを判断するわけではなく、非透析時の血圧や、胸部レントゲンによる心胸比の値や変動、肺の部分のうっ血所見、さらに浮腫の有無、透析後の自覚症状などで総合的に判断しなければなりません。

医師